

「中之島西部エリア活性化に向けた提言」 ～企業参画を促す環境をつくり、“他にはない魅力づくり”を～

【お問合せ先】大阪商工会議所地域振興部 中野・中村
☎ 0 6 （ 6 9 4 4 ） 6 3 2 3

- 大阪商工会議所 都市再生委員会（委員長：錢高一善・（株）錢高組社長）は、水都大阪の新たな観光拠点として期待が高まりつつある中之島西部エリアの活性化に向け、提言をとりまとめた。本提言は、観光関連事業者等をメンバーとするワーキンググループ（座長：杉本容子・大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員）において検討してきたもの。
- 中之島西部エリアは、大阪市中心卸売市場（本場）に代表される、“西日本一の食の拠点”としてのブランド発信や、周辺地域や舟運との連携による相乗的な魅力創造等を推進すべき地域として、本年 2 月に、本会議所と大阪市が「水都大阪の新たな観光拠点」として報告書をまとめた。また本年 6 月にまとめられた大阪府市統合本部の「大阪府市都市魅力戦略」でも、今後整備すべき水都大阪の新たなシンボル空間の一つに挙げられており、現在大阪府では、同エリアの活性化計画の策定を進めている。
- こうした流れを受け、本提言では、水都大阪を代表する恒常的な賑わい空間として同エリアを機能させるため、企業参画を促す環境づくりの必要性や活性化策等を取りまとめている。
- 具体的には、川と海をつなぐ船着場や大阪市中心卸売市場（本場）の近接地といったエリア特性を活かした「他にはない魅力づくり」、都心部からベイエリアまでをつなぎ、回遊魅力を高める「水辺のネットワークづくり」等を活性化策として提案。
- また、それらの実現に向けては、企業参画を促す環境づくりが不可欠との観点から、行政・企業・NPO・市民など「多様な主体間の対話の場づくり」や、行政と民間、また行政関連部署間での「計画策定プロセスの共有」、さらに「行政による先行的な公共事業の実施」、「行政の規制緩和による民間ビジネスの展開支援」等、中長期スパンで継続的に取り組んでいくことを求めている。

＜提言内容のポイント＞

（１）活性化のポイント

- ① 人・企業をひきつけるモノ・コト、他にはないシンボルづくり
大阪市中心卸売市場（本場）の立地や、海の船が入って来ることができるなど、エリアの特性を最大限活かし、他エリアとの差別化を図り、「わざわざ行く」来訪目的となるシンボルづくりを行う。
- ② 利用者の目線でつなぐ戦略的な水辺とまちのネットワーク強化
「水辺の拠点へのアクセス向上によって界隈のスポットを心地よくめぐる」という利用者の目線から、利便性と回遊魅力を高める。

③ エンドユーザーに響くデリバリー（情報発信）の工夫

一般的には、このエリアについてのイメージが希薄である。その現況を逆手に取り、テーマを特化したエリアブランディングをするとともに、その魅力をエンドユーザーにしっかりと届けるデリバリーを工夫し、口コミなどの波及効果をねらう。

（２）活性化に向けた、企業参画を促す環境づくりの必要性

行政・企業・NPO・市民など多様な主体が連携しながら、中長期的なスパンで持続的に取り組んでいくため、企業参画を促す環境づくりとして、下記方策への取り組みが不可欠である。

- ① 企業、市民、NPO、行政など、多様な主体間の対話の場づくり
- ② 行政と民間、また行政関連部署間での計画策定プロセスの共有
- ③ 行政による、先行的かつ効果的な公共事業の実施
- ④ 行政の規制緩和による、民間の都市魅力ビジネスの展開支援
- ⑤ 持続的なエリアマネジメントの実施

以 上

＜添付資料＞ ○「中之島西部エリア活性化に向けた提言」
○中之島西部活性化検討ワーキンググループ 検討体制・検討内容

中之島西部エリアの活性化検討ワーキンググループ

◆検討体制

(企業・団体名順、敬称略)

<座 長>

大阪市立大学	都市研究プラザ特別研究員	杉本 容子
--------	--------------	-------

<メンバー>

ANAセールス(株)	大阪支店第二販売部マネージャー	祝井 哲雄
大阪シティクルーズ推進協議会	事務局長	大江 幸路
大阪小型水上旅客船協議会	会長	伴 一郎
近畿日本ツーリスト(株)	関西営業本部部長兼ブランド戦略室部長	中永 毅
京阪電気鉄道(株)	事業統括室観光担当部長	永野 修
(株)ジェイティービー	西日本国内商品事業部地域統括部長	高橋 広
住友倉庫(株)	開発事業部開発課長	大田 晃正
(株)銭高組	執行役員	銭高 丈善
にぎわいX i n g	管理運営事務局 (株)ランドマークジャパン)	那須 大輔
西日本旅客鉄道(株)	近畿統括本部営業課観光推進室長	松井 徹夫
日本航空(株)	関西地区法人販売部部長	金澤 浩史
(株)ロイヤルホテル	マーケティング部長	荻田 勝紀

<事務局>

大阪商工会議所	地域振興部部長	中野 亮一
大阪商工会議所	地域振興部副主幹	中村 裕子

(以上 15 名)

◆検討内容

<第1回WG：6月27日>

1. 「中之島西部エリアの活性化検討ワーキンググループ」について
2. 中之島ゲートエリア（仮称）でのシンボル空間創出に向けた取り組みについて
3. 中之島西部エリアの紹介
4. 今後の検討に向けて（意見交換）
5. 視察クルーズ

<第2回WG：7月30日>

1. 「水都大阪のシビックプライドによる都市再生」
NPO法人パブリックスタイル研究所理事 武田重昭氏
2. 中之島西部エリアの現況、ならびに水都大阪の水辺活用状況について
3. 意見交換

<第3回WG：8月30日>

1. 「水都大阪フェス2012」中之島西部エリアでの社会実験について
水都大阪フェス2012 ディレクター 泉英明氏
2. 中之島西部エリアの活性化に向けた提言案について
3. 意見交換

【関連計画】

- ①大阪府市統合本部会議「世界的な創造都市に向けて～グレート リセット～」
:中之島 GATE 中之島西端の剣先シンボル化 水辺空間のにぎわい創生
- ②大阪市「魅力あるリバーフロントの形成に向けた基本方針」:川と海の結節点
- ③水都大阪推進委員会「水と光のまちづくり構想」:新たな水都大阪のシンボル空間
- ④大阪商工会議所・大阪市「水都大阪の新たな観光拠点調査検討」報告書
:西日本一の規模を誇る食の拠点の発信・潜在的魅力をもつ周辺地域
舟運との連携による相乗的な魅力創造
- ⑤大阪市「観光振興戦略」
- ⑥大阪商工会議所「千客万来都市OSAKAプラン」



水と光のコリドール



中之島 GATE

大阪府市都市魅力戦略会議報告書(H24.6)より

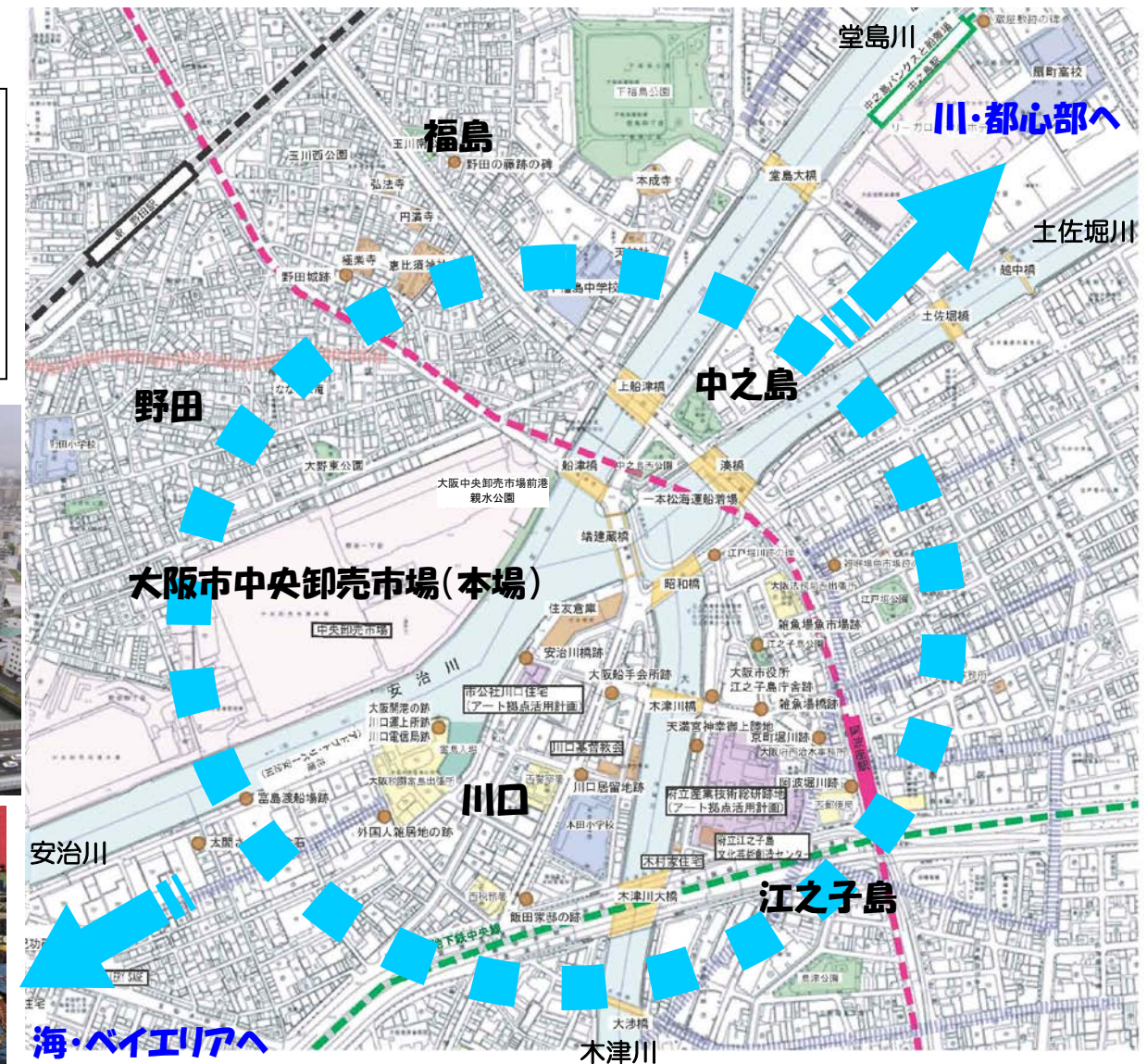
課題

- ・鉄道駅が遠く**アクセスが悪い**
- ・川とまちが**空間的に断絶**し水際に近づける場所が少ない
- ・**地域イメージ**がなく訪れる目的がない

ポテンシャル

- ・大阪市中央卸売市場(本場)・**食のブランド**(ぎこばの朝市)
- ・**川と海をつなぐ**立地、川が交差する特徴的な大空間
- ・**大阪開港の地**という歴史性、夕日の名所という物語
- ・**新たな開発**の動き(江之子島、中之島4丁目)
- ・港湾機能の転換による**新たな土地利用**の可能性

現在の周辺の状況	
●右岸公共用地・・・	0.3ha
●左岸民有地・・・	1.5ha
●左岸公有未利用地	1.2ha
計	3.0ha



A group of people are gathered around a table outdoors, possibly at a market or festival. In the foreground, a large blue bowl filled with food is visible. The background shows a white tent and red flags.



中之島西部エリア活性化の3つのポイント

①人・企業を惹きつけるモノ・コト、他にはないシンボルづくり

大阪市中央卸売市場(本場)の立地や海の船が入って来ることができる場所などのエリア特性を最大限活かし、他エリアとの差別化を図り、「わざわざ行く」来訪目的となるシンボルづくりをする。

- 1・食のブランドを活かしたエリアの核となる施設づくり
- 2・商業だけではない複合的な魅力づくりと時流にあわせて柔軟に変化する工夫
(デューティーフリーショップ、ホテル、ボートホテル、水上住宅など)
- 3・大阪初の海の船と川の船の乗り継ぎができる拠点的なマリーナづくり
(関西空港から海の高速船で訪れ、都心観光へ川の船で出かける観光スタイルの実現)
- 4・西の剣先の2橋(端建蔵橋・船津橋)を海からのゲートに相應しいシンボリックなデザインにリニューアルするとともに両岸の回遊性を向上



船の通行のたびに持ち上がるシンボル橋
(ニューキャッスル・ゲーツヘッド)



水辺のシンボリックな美術館
(ビルバオ:グッゲンハイム美術館)

③エンドユーザーに響くデリバリーの工夫

エリアイメージがない現状を逆手にとり、テーマを特化したエリアブランディングを進めるとともに、その魅力をエンドユーザーにしっかりと届けるため、デリバリー(情報発信)の方法を工夫し、口コミなどの波及効果をねらう。

- 1・「市場」「食」のブランドイメージを活かした魅力の発信
- 2・わかりやすく魅力的なキー・ビジュアルの活用
- 3・エンドユーザーとまちのコミュニケーションの仕掛け
(アーティストによるワークショップ、モニタリングなど)

②利用者の目線でつなぐ戦略的な水辺とまちのネットワーク強化

「水辺の拠点へのアクセス向上によって界隈のスポットを心地よくめぐる」という利用者の目線から、利便性と回遊魅力を高める。

- 1・都心部・中之島からベイエリア・大阪港までの都市魅力をつなぐ東西の動線の連携・強化
(船、公共交通機関、水辺の歩行・自転車ネットワーク)
- 2・水辺への視線を確保する水面・護岸・隣接敷地 or 道路を一体的にとらえた水際づくり
(断面レベルに配慮した水際の施設、スーパー堤防など)
- 3・1Km²圏内を回遊するエリアの楽しみ方とアクセスの向上
- 4・エリア周辺の関連施設が連携したコンテンツ開発、マップづくり、まち歩きツアー開発



建物と水面を段階的につないだ水辺の賑わい施設
(大阪:キャナルテラス堀江)

活性化に向けた、企業参画を促す環境づくりを

中之島西部エリアの活性化の実現に向けて、行政・企業・NPO・市民など多様な主体の知恵と力を効果的に組み合わせ、役割分担しながら、中長期的なスパンで持続的に取り組んでいくことが不可欠であり、そのための環境づくりとして、下記方策に早い段階から取り組むことが重要である。

1. しなやかな連携を実現するため、企業・市民・NPO・行政など、多様な主体間の対話の場づくり
2. 中長期の視点で、行政と民間、また行政関連部署間での、計画策定プロセスの共有
3. 幅広い企業参画に向けた、行政による、先行的かつ効果的な公共事業の実施(年度を超えた推進体制・予算執行のあり方等)
4. 行政の規制緩和による、民間の都市魅力ビジネスの展開支援(企業提案による、新たな水面占用スキーム・水辺施設の実現等)
5. 企業と行政が役割分担しながら、持続的なエリアマネジメントの実施

